

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	ダンスVII（身体表現）	
科目基礎情報					
開設学科	声優・演劇科	コース名	声優コース	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	60時間
単位数	2単位			授業形態	実習
教科書/教材	特になし				
担当教員情報					
担当教員	今津雅晴	実務経験の有無・職種	有・ダンサー		
学習目的					
この科を受講する学生の、表現の場所（舞台上、メディア、スタジオなど）に立つ上での身体表現の幅を拡げ、機能的にかつ効率的に身体を使うことを目的とする。様々な表現が求められる現代において、パントマイム的な要素を軸に、解剖学的観点から身体の機能を理解しながら身体を扱う。ジャイロキネシスのカリキュラムなどを使用し、コンテンポラリーダンスなど感情と身体能力を結びつけることが狙いである。					
到達目標					
この科目で学生が日常生活の中から想像力を広げ、イメージを身体表現の幅として客観的な観点から観察し、理論的に身体表現を分析することにより、多種多様な個性を表現できる人間を育成し、身体表現能力の向上、コミュニケーション能力のより一層の向上、イメージの具現化を実現させる。これにより現代においての日本人のプライドを持ちながら、表現に自信を生み、想像力に溢れ、文化的な表現者の育成を目的とする。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、個々の想像力を伸ばし、自分自身を知り、どのような表現者を目指し努力していくかということを明白にしていく事をテーマにおき、パントマイム、ジャイロキネシス、マーシャルアーツ、コンテンポラリーダンス、モダンダンスなど、様々なテクニックを身につけると同時に、自分にあった表現方法を見つけていきます。				
注意点	この授業において、学生自身が自分自身と向き合う作業を通して身体表現へとつなげていくため、その初めての作業に学生自身が困惑する可能性があります。そこからどのように興味を引き、クラス自身をエンロールし、グループ全体で作り上げる喜びを与えていきたい。表現する上で非常に大切な喜びということを念頭に置き、Why(なぜ?) What(何を?) When(いつ?) Where(どこで?) Who(誰が?) How(どのようにして?) 自分の表現方法をクリアにして、学生本人の可能性と向き合う。 授業時数の4分3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備考		
	課題	50%	授業内で行う課題に対する達成感		
	発表	15%	発表を行う事により客観性を養う		
	リサーチ	15%	自身の観察、探求を目的とする		
	発案・研究	10%	どのようなことを発案の起源へとなりうるか		
	平常点	10%	授業の参加度、授業内における態度		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	身体の仕組みとイメージ	身体を解剖学的に分析（動作性と骨格）理解して、イメージを掴む、ジャイロキネシスを用いる			
2回	表現手段の可能性と活用	表現のパターンと骨格をパントマイムなどのテクニックを例に客観的に見せる			
3回	表現活用（パントマイムA）	動きのスピードと分析（人物年齢による骨格の変化からなるキャラクター）			
4回	解剖学とダンス1	関節の可動範囲を知りながら、それをダンステクニックにつなげていく			
5回	解剖学とダンス2	1にした振付を復習と確立			
6回	解剖学とダンス3	1にした振付を復習と確立（発表）			
7回	表現方法としてパントマイムB	キャラクターによる癖や歩き方、仕草により与える印象をマイムにしてそれをダンスに取り入れる			
8回	パントマイムC	パントマイムBのデベレップメント→振付			
9回	パントマイムD（発表）	ジャイロキネシスとマイムを取り入れた振付発表、客観性と分析			
10回	創作テクニック	イメージしたものをどのように作品に落とし込んでいくか、自分なりのストーリーを考える			
11回	思考とボディコントロールとメンテナンス	自分自身のイメージしたものをどのように作品に入れ込み振付、ボディケア、メンテナンス			
12回	コンテンポラリーダンス1	癖や歩き方を振付の中に入れ込み、各自にキャラクターで踊る→振付、ボディケア			
13回	コンテンポラリーダンス2	創作の要素を加え、振付を膨らませる。ボディメンテナンス			
14回	コンテンポラリーダンス3	振付をAグループ、Bグループに分け、各自のイメージをシェア、ボディケアとメンテナンス			
15回	コンテンポラリーダンス4	振付発表、舞台表現において精神コントロールとボディケア、メンテナンス			